

漢文「論語」② 一書キ下し文一

◎書キ下し文に直そう

1

子曰、ハク「学ビテ而時習ニ之、ヲ

子曰はく、「学びて時に之を習ふ、

不ズ亦ニ説バシカラ乎ヤ。

亦説ばしからずや。

有リ朋ニ自ヨリ遠ニ方ニ来タル、

朋有り遠方より来たる、

不ニ亦ニ樂シカラ乎。

亦樂しからずや。

人レ不シテ知ラ而レ不レ愠ム。

人知らずして愠みず、

不ニ亦ニ君ナラ子ト乎。

亦君子ならずや。」と。

有リ朋ニ自ヨリ遠ニ方ニ来タル、
下 上

朋遠方より来たるあり、

他の読み方

漢文「論語」② ―書キ下し文―

◎書キ下し文に直そう

2

子曰、ハク「知ル之ヲ為シ知ルト之ヲ、

子曰はく、「之を知るを之を知ると為し、

不知ザル為ラ不知ス知ト知ラ。

知らざるを知らずと為す。

是知ル也ナリト。」

是れ知るなり。」と。

年 組 番 氏名

漢文「論語」② —書キテし文—

◎書キテし文に直そう

3

子曰、^{ハク}「己^ノ所^レ不^ザル^ル欲^セ、

子曰はく、「己の欲せざる所、

勿^レ施^ス於^ニ人^ニ。」

人に施すこと勿かれ。」と。

年 組 番 氏名

漢文「論語」② —書キ下シ文—

◎書キ下シ文に直そう

4

子曰、^{ハク}「温^{メテ}故^{キラ}而知^{レバ}新^{シキラ}、

子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、

可^ニ以^{シト}為^{モツテ}師^{タル}矣。」

もつて師たるべし。」と。

漢文「論語」② —書キト一文—

◎書キト一文に直そう

5

子曰、ハク

子曰はく、

「学ム而不レ思ハ則チ罔シ。

「学びて思はざれば則ち罔し。」

思フ而不レ学バ則チ殆シト。」

思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

漢文「論語」② ―書キ下シ文―

◎書キ下シ文に直そう

6

子曰、^{ハク}「知^ル之^ヲ者、^ハ

子曰はく、「これを知る者は、

不^レ如^ニ好^ム之^ヲ者。^ニ

これを好む者に如かず。

好^ム之^ヲ者、^ハ

これを好む者は、

不^レ如^ト楽^カ之^{シム}者。^ニ

これを楽しむ者に如かず。」と。